

ふるさと探究 ハンドブック

～担い手育成（基礎編）～

令和7（2025）年3月
NPO法人安曇野ふるさとづくり応援団

目次

ふるさと探究ハンドブック（基礎編）の趣旨・内容

本書は、令和3年以降「ふるさと探究」の授業支援を実践してきなかで、とくに地域探究学習に主導的に関わる方々が共有したいと考える基本事項を「基礎編」としてまとめたものです。

主な内容は、ふるさと探究の目的や基本的な進め方、ふるさと探究を実践する人たちが、授業の準備から実践までの間で共有すべき基本的な認識や姿勢、探究学習の視点からのまちの風景の捉え方です。

学習プログラム構築の基礎であり、その準備に役立てていただければ幸いです。

I. ふるさと探究の目的・概要	1
II. 担い手の心構え	3
III. 対象の捉え方	5
◆「見える風景」「見えない風景」という考え方	5
◆見えない風景 ～時間でとらえる～	6
◆見えない風景 ～空間でとらえる～	7
－安曇野の成り立ちの基盤となる要素に着目－	7
－授業で用いた実例で解説－	9
IV. ふるさと探究「担い手育成」	12
1. ふるさと探究「担い手育成」の概要	13
2. ふるさと探究「担い手育成」プログラム	14
3. 担い手育成の実践	15
4. 担い手育成の課題	28
5. 情報発信	29

NPO法人 安曇野ふるさとづくり応援団 活動概要

■理念

『Iターナー者と地域住民との交流による、地域の自然・歴史・文化・風土を大切にふるさとづくり』

■組織

2006.6
NPO法人信州ふるさとづくり応援団設立
2016.12
NPO法人安曇野ふるさとづくり応援団

■活動

- 地域再発見
『ふるさとウォッチング』 2007～
『安曇野さんぽ』 2014～
- 地域ガイド育成
『案内人の教室』 2016～
- 協働まちづくり
『安曇野まちなかカレッジ』 2013～
『さとやま楽校』 2015～
『安曇野ふるさと遺産』 2018～
- 探究学習支援
『ふるさと探究』 2021～
『ふるさと探究』担い手育成 (2024～)

『ふるさとウォッチング』～地域再発見(2007～)



『旧保高宿まちづくり』～地域再発見(2012～)



『案内人の教室』～人材育成(2015～)



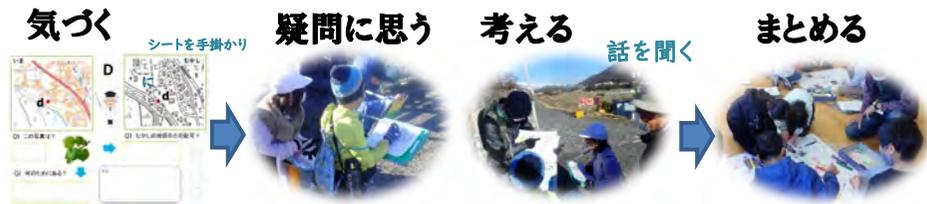
『安曇野ふるさと遺産』～協働のしくみ(2018～)



『ふるさと探究安曇野』～探究学習支援(2021～)
『ふるさと探究』担い手育成 (2024～)

「ふるさと探究安曇野」とは、失われつつある安曇野の歴史文化景観遺産の存在や成り立ち等をNPO法人安曇野ふるさとづくり応援団が様々な主体との協働で、子ども達に伝えていくしくみづくりを進める取り組みです。

学習指導要領でも「探究型の学び」が重視されてきていることも踏まえ、次世代が市内のお宝の存在を現場で知り、学びそして伝えていく展開を生み出すことを目指しています。

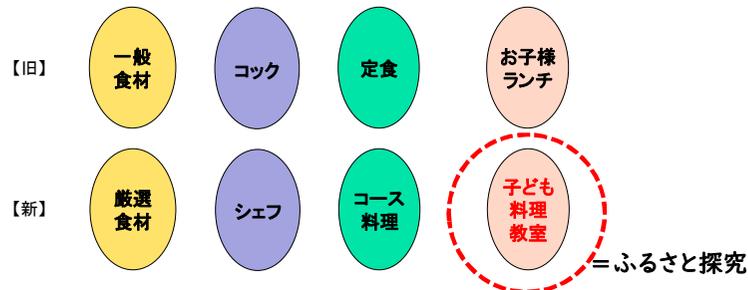


取り組み過程の成果を広く発信・共有

学びを支える教材や安曇野の歴史・文化資源にまつわる情報を整理した資料・学びの機会をつくるための工夫やノウハウ等

活動の展開 ～ 料理に例えると

お子様ランチの提供ではなく、**子ども料理教室**の開催



「ふるさと探究安曇野」は、地域への理解の程度や参加者の関心のレベルに合わせた初級・中級・上級のプログラムに大別されます。学校や主催団体の要望に応じたオーダーメイドによる学習プログラムです。

初級a 謎解きウォーク

内容

地図をみながら歩いてポイントを探し、ポイント近くに見えるモノの背景に潜む様々な謎の答えを推理しシートに記入。案内役の大人のガイドのポイント解説で理解をさらに深める探究型のウォークラリー。

ねらい

日頃見慣れた何気ない風景にもその成り立ちには理由や様々な背景があることについて、「謎解き」という子どもの冒険心を掻き立てるきっかけを活かして理解を深める。

初級b ぬかくど体験

内容

安曇野の有機米農家がぬかくどご飯の材料であるコメと水の解説を行ったうえで、紙芝居やクイズでぬかくど釜への理解を深め、実際に本物の釜を使ってご飯炊き体験を行うプログラム。

ねらい

安曇野の水と稲作を理解しながら、電気もガスも使わずに炊く米の味も味わい、自分の育つ環境、土地のもつ「豊かさ」、古くから地域に継承されてきた知恵や技術を五感で体験する。

中級 謎探しウォーク

内容

STEP1 個人で取り組むまちの中の「謎探し」とその解決

STEP2 グループで取り組むまちの「謎探し」とその解決

ねらい

同じ「謎探し」とその解決であっても、個人の考えや目線で行う場合と、グループで話し合っ探す場合の間に様々な違いがあることを感じ、多様な視点や考え方への理解を深める。

上級 課題解決型探究

内容

STEP1 初級編の手法や考え方を取り入れ、まちを歩きその特徴や課題を謎解き方式で理解。

STEP2 STEP1での理解を活かし、再度まちを確認しながら、魅力向上や課題の解消につながる新たな取り組みを提案。

ねらい

謎解きを通じて身近な暮らしの環境の成り立ちや特色・課題の捉え方を学び、自分がいま育っているまちへの関心・理解を深める。

さらに、まちの特色を踏まえて設定されたテーマ、課題に沿って自分たちでその対応を考えて形にしていく企画・提案のプロセスを体験する。

「ふるさと探究」のスタートは子ども達と一緒にまち歩きをすること。そこから得られたものを手掛かりに学習を進めます。

まちの成り立ちや経緯など知識は一定程度必要ですが、単なる知識ではなく、その背景や理由、方法等も含めた知恵が求められています。

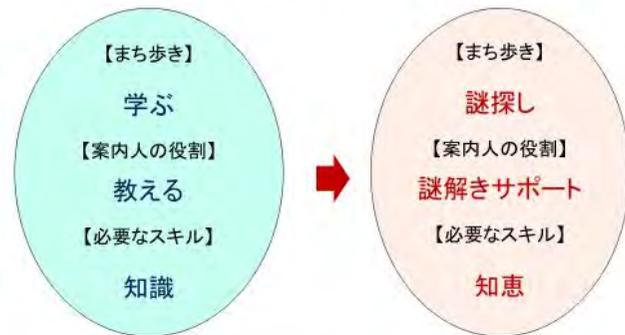
これは、これまでの案内人活動の実践を通じて気づき、学んだことです。

「ふるさと探究」の取り組みに関わる方と共有したい心構えとして持っていたいポイントは次の3点です。

- ① わからない、不思議と感じることいわゆる「謎」を「探して学ぶ」こと
- ② その謎の答えを「教える」のではなく、みつけた謎を「一緒に解く」こと
- ③ 知識の説明はなく、そこに気づかせる知恵や工夫を加えて「会話する」こと

II ふるさと探究 ～ 活動の視点

『案内人活動での気づき』



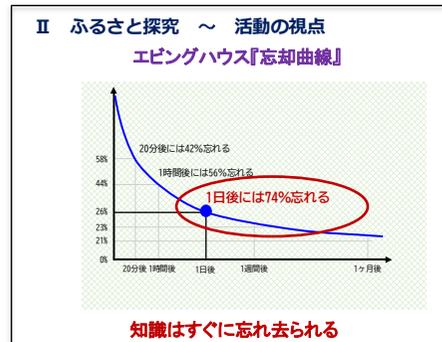
ふるさと探究へフィードバック

「ふるさと探究」で大事にしている4つの法則

◆知識は記憶に残りません。なぜ？を考える問いかけが重要です。

まち歩きでは、見えるものがどんなものか、またその歴史等について語るようになりますが、どんなに一生懸命話しても、翌日には4分の3は忘れ去られてしまいます。

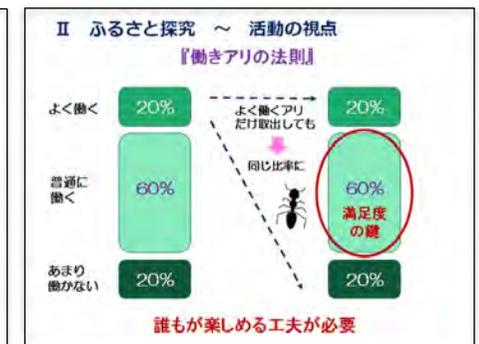
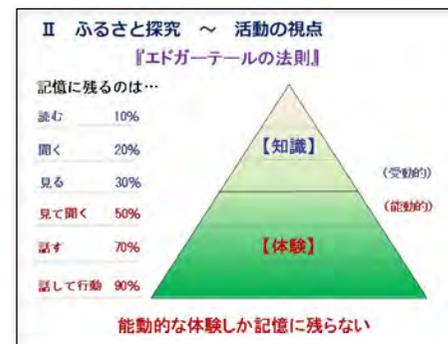
したがって、目に留まるものが「なぜ」「どのように」そうなったのかという問いかけを通じて、子ども達と共感できるポイントをつくりながら向き合うことが大切です。



◆能動的な体験と誰もが楽しめる工夫が必要。

忘れ去られないためには能動的な体験が欠かせません。ふるさと探究ではフィールドワークだけでなく、まとめと発表も行うことで効果を高めています。

子どもたち向けにふるさと探究を行う際には、大体5人ぐらいのグループになります。その際に理解の早い1人の子のためだけに話をするのではなく、平均的な3人の子どもたちがいかに楽しみながら理解してもらうかを大切にしています。



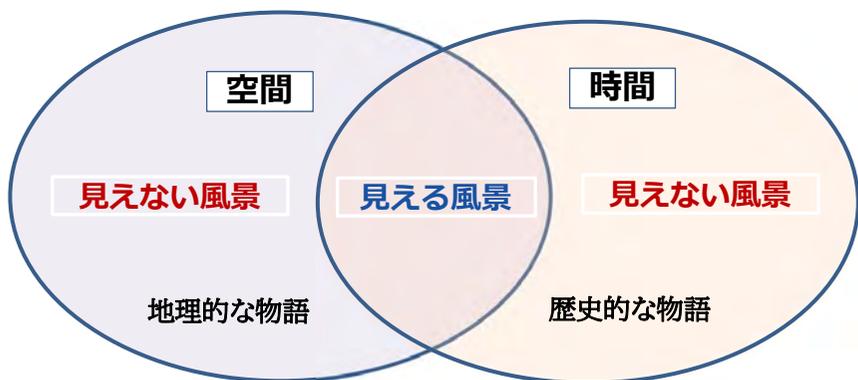
◆「見える風景」・「見えない風景」という考え方

目の前の見どころや子ども達に伝えたい素材は実在するもの【見える風景】ですが、ここに至るまでの経過や背景【見えない風景】があるからこそ生まれてきたものです。

この両者の相互関係をとらえながら探究を深めるポイントを探ることが重要です。

【風景の捉え方】

『時間的』『空間的』に『見えない風景』を想像



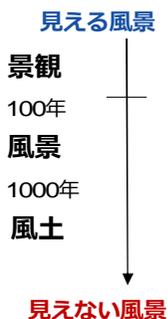
景観 10年 風景 100年 風土 1000年

暮らしを育む人の営み・実り ※3

暮らしを豊かにする文化・伝統 ※2

暮らしを支える自然 ※1

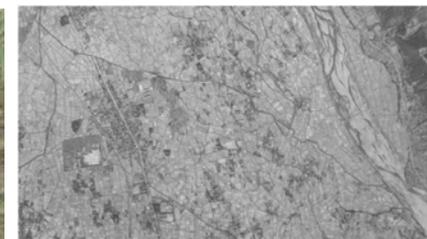
- ※3 住宅、仕事、生活等 ~人的な物語
- ※2 信仰、お祭り、偉人等 ~歴史的な物語
- ※1 地形、みち、気候等 ~地理的な物語



◆見えない風景 ～時間でとらえる～

場所の昔の姿についての情報は、その場所の成り立ちや現在と過去の違いを理解するうえで重要な要素です。

町村誌、空中写真、地図等を使って、「見えない風景」を時間をさかのぼって追いかけて、そのなかに見える風景を子ども達に伝えていくことも「ふるさと探究」の重要な視点です。



【右上写真出典】徳高町誌
 【中段左地形図】地理院地図より作成
 (https://maps.gsi.go.jp/#15/36.289514/-137.886164/@base=std&is=std&disp=1&vs=c0g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1&d=m)
 【中段右地形図及び下段空中写真】地理院地図及び地図・空中各品閲覧サービスのホームページより
 (https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1)

◆見えない風景 ～空間でとらえる～

—安曇野の成り立ちの基盤となる要素に着目—

北アルプスの山麓に位置する安曇野の環境やくらしは、北アルプスの造山運動に由来して形成されきた岩盤の地質や、これらが風雨で長い年月をかけて削られて形成されてきた地形の成り立ちや背景を探究する学習には欠かせない要素です。

地質～東西の違い～



糸魚川静岡構造線を挟んで東と西で地質年代も表層の土壌も異なる

出典：楽しく学ぼう！安曇野の郷科書(2014)

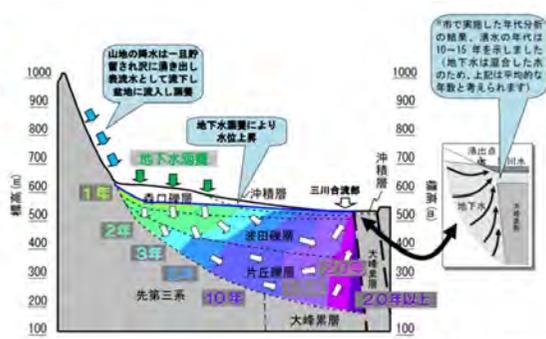
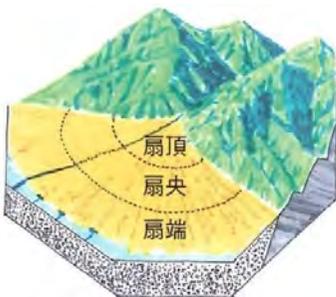


図 2.10 地下水の形成と流動時間の概念 (年数毎の色分けは地域の地下水流動特性と地層毎の水の通りやすさの違いを考慮し表現しました) 出典：安曇野市水環境基本計画(マスタープラン)

扇状地

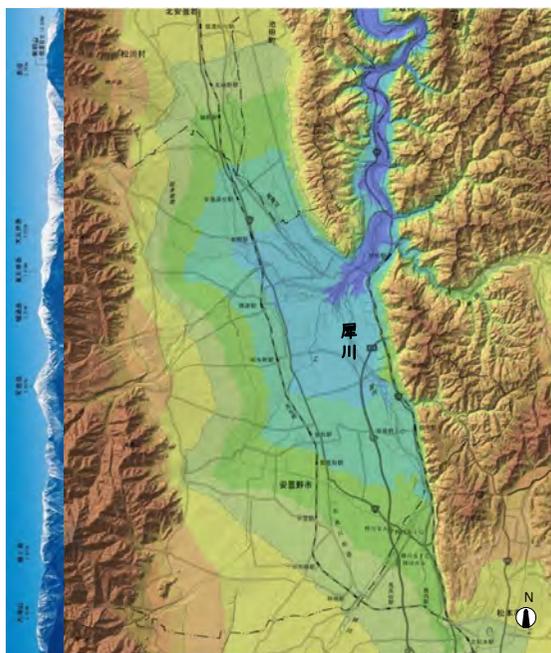
→地形と暮らし

犀川より西側の地域に広がります



出典：楽しく学ぼう！安曇野の郷科書(2014)

- 扇頂部：**縄文や古代の遺跡も確認されている沢水と山の恵みで古くから人が住み着いた場所
- 扇中部：**地下水がしみこみやすく、先人たちが堰をつくって開墾した場所
- 扇端部：**わさびや養魚の生産を支える、地下水が湧き出る場所

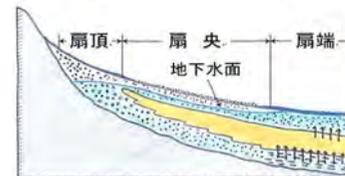


国土地理院電子国土情報 (<https://maps.gsi.go.jp>)にて作成した図に山岳の図を追加して作成

堰 ～水を求めて～

「堰(せぎ)」とは網目状に広がる安曇野の農業用水路のこと。

元来、水の得にくい扇中央で水田耕作などができるようになったのは、先人たちが開削した堰のおかげ。



出典：安曇野の拾ヶ堰ガイドブック(2008)

<2種類の堰>

- 縦堰：**鳥川や梓川を水源とし、等高線に対して直角方向に自然の流れを利用して導水した堰
- 横堰：**梓川や奈良井川を水源とし、等高線に沿ってほぼ平行に導水した堰

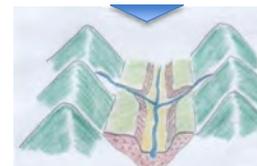
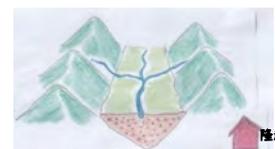
河岸段丘

河川が運んできた砂礫・土砂が堆積して谷底平野ができ、地盤の隆起により河川に侵食されて、兩岸または片側に段丘が形成

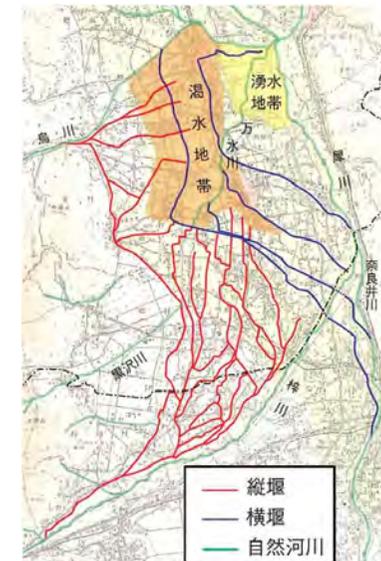
明科付近の河岸段丘の断面図



河岸段丘の形成



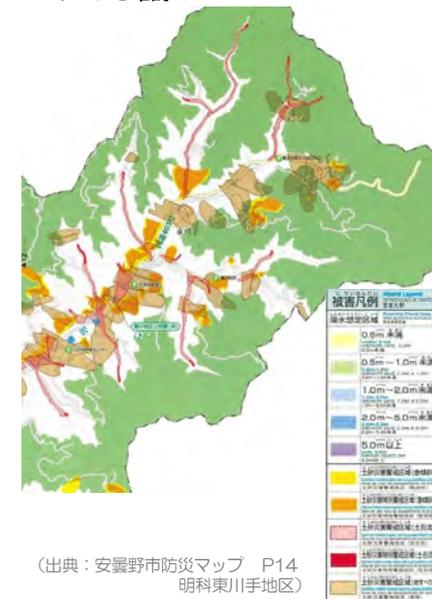
参考文献「明科町史自然編」、「池田町誌自然編」等



出典：安曇野の拾ヶ堰ガイドブック(2008)

ハザードマップ

土砂災害や浸水等、ハザードマップで地形のリスクを確認



(出典：安曇野市防災マップ P14 明科東川手地区)

◆見えない風景 ～空間でとらえる～

－授業で用いた事例で解説－

私たちの暮らしの基盤になるのは土地の形、いわゆる地形です。

地面の高低差や斜面の有無は、川から水を引いたり、道を作ったり、家を建てたり、水や電気を引いてくるにも大きなハードルであり、まちの成り立ちや形を決め、目に入る風景を決める大きな要因です。

地形を意識すると、町の範囲や家の位置、道がなぜ通っているのか、など見えている風景の理由の一端がみえてきます。

土木技術が発展途上であった時期の地図と地形(高低差や土地の凹凸)を見比べると、地形とくらしの関係がみえてきます。豊科南中付近の約110年前の地図と、現在の地形との関係から見えることを例示します。

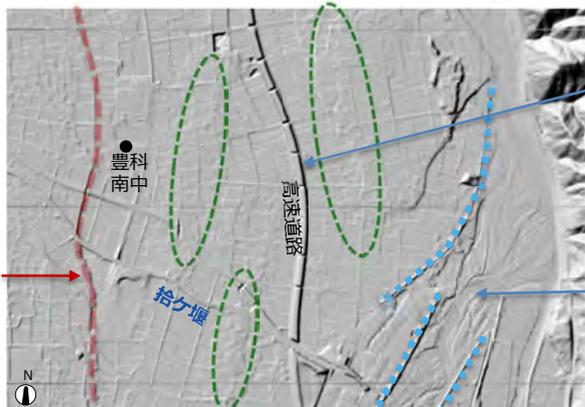
1910年(明治43年)古地図



古い集落は水害の危険性の減る小高い場所(自然堤防)に立地している。

堤防のない時代の川の水はあちこち流れている。

現在の土地の起伏図



水害の危険性が高い、旧河川の近くに高速道路ができた。

堤防等で流路は制限されているが、一部は露堤になっている。

古い時代に川の水が氾濫し、土地が削られてできた段丘の名残が今もなお確認できる。

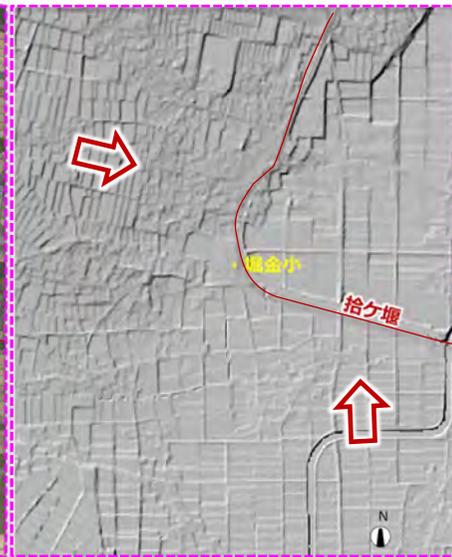
【旧版地形図】地図・空中写真閲覧サービスのホームページを通じて入手し使用
【下段：陰影起伏図】地理院地図より作成

田んぼの多い「安曇野」。田んぼの形や向きに注目すると、いろいろなことが見えてきます。田んぼは、代掻きや田植え等の作業を効率よく行うために、できるだけ平坦な面を幅広く確保する必要があり、短い距離の側に向かって下がっています。空中写真と地形の凹凸のわかる地図で堀金小学校の付近を見比べてると、小学校の西側の田んぼは東、小学校の南側の田んぼは北が下がる形で段々が形成され、交差部分で拾ヶ堰が直角に曲がっています。

現在の空中写真



現在の起伏図



このような違いは、田んぼの水の取水元の位置と関係します。

小学校の西側の田圃は主に鳥川から引いた水、南側の田んぼは、鳥川よりも南の沢や三郷方面からの水を使っています。

それぞれの水を地形に合わせて効率よく使ってきた先人たちの知恵の結果が田んぼの向きにも現れています。



【空中写真】地図・空中写真閲覧サービスのホームページを通じて入手し使用
【地形図・陰影起伏図】地理院地図より作成

参考：見えない風景を知るための資料

○地図の比較

1913年(大正2年)の地図と現在の地図では、現在では使われていない記号も多くあります。

地図記号に沿った土地利用の塗分けなどもあわせて学習のなかに組み込めると、探究がより深まります。

○写真の比較

過去の写真集として発行された冊子や市町村誌などに収められた過去の写真を現在と比べるのも有効な手段です。

○空中写真での比較

戦後以降であれば、インターネットで入手可能です。昭和20年代と平成20年代ものを比較すると、その違いが明確にわかります。

1913年(大正2年)の地図記号



現在の地図記号



空中写真等の閲覧・入手関連ホームページ

◆国土地理院ホームページでの空中写真閲覧サービス



撮影年や範囲を検索して空中写真のダウンロードが可能



<https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>

◆新旧の地形図を比較できるサイト



対象エリアを選定すると1910年、1931年等の古い地図と地理院地図とが比較できる



<https://ktgis.net/kjmapw/>

IV ふるさと探究「担い手育成」

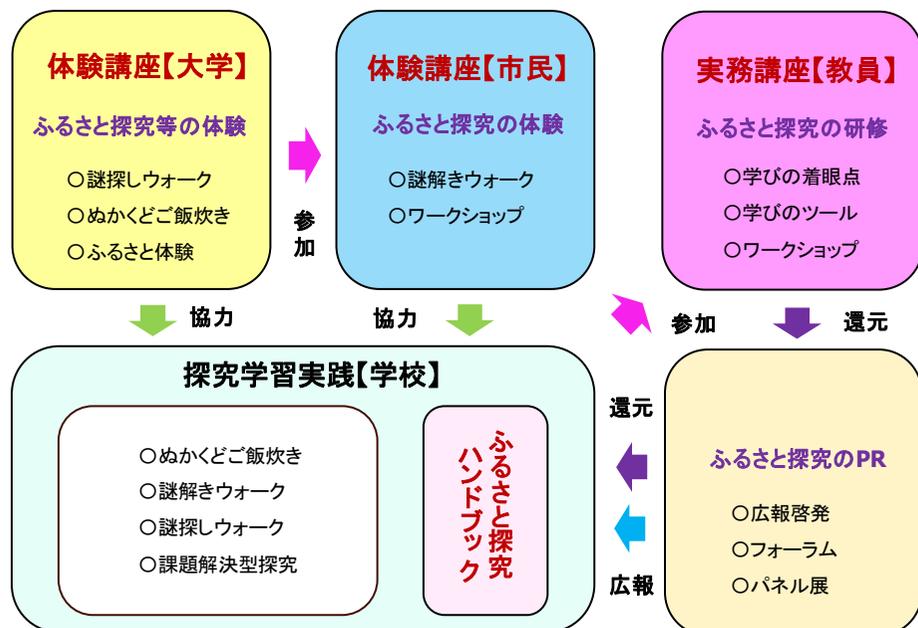
1. ふるさと探究「担い手育成」の概要

「ふるさと探究」での蓄積を活かして、探究学習支援をより持続可能なものとしていくことを目指し、その運営手法等にも工夫を加えながら、担い手になる人材育成に取り組んでいます。

教育委員会、大学、国営アルプスあづみの公園等の官民学の連携による担い手育成のしくみの構築を進めています。

2026年度まで3か年かけて取り組み、その成果を「ふるさと探究ハンドブック」としてとりまとめる予定です。

担い手育成（概念図）



2. 担い手育成のプログラム

体験講座【大学】

安曇野市内で展開している探究学習「ふるさと探究」のプログラム運営への参加・協力を始め、安曇野の地域探究の重要な素材とな「地域の宝物」の維持管理や学習の機会に参加できる「体験講座」を信州大学と調整を図りながら実施しました。

実施実績

学校	実施内容	実施日
武蔵野六中1年	謎解きウォーク	2024.9.7
堀金小3年	謎解きウォーク	2024.9.24~25
堀金小3年	ぬかくどご飯炊き	2025.2.21
豊科北小3年	ぬかくどご飯炊き	2025.3.3~4
地域		
里山	謎解きウォーク	2024.11.9
屋敷林	落葉拾い	2024.11.23



体験講座【市民】

安曇野市の代表的な景観を形成し、地域の宝物といえるような文化的な資源が多くみられる地区を対象に、謎解きウォークやワークショップを安曇野市教育委員会文化課等と連携して開催しました。

実施実績

田園集落 中堀地区	2024.10.12
水辺集落 等々カ地区	2024.10.26
里山集落 潮沢地区	2024.11.9
まちなか 保高宿地区	2024.11.27



実務講座【教員】

安曇野市教育委員会と連携し、市内の小中学校の探究学習推進の一翼を担う「安曇野の時間推進委員会」の教員を対象に、謎解きウォークのシート作成や、地域資源を活かした探究学習の進め方についてのワークショップ等を定期的に実施。その成果を市内の小中一貫教育推進の研修会で共有しました。

実施実績

第1回	ワークショップ(探究学習の現状と課題)	2024.6.18
第2回	フィールドワーク(ワークシート作成体験)	2024.8.1
第3回	ワークショップ(今後の探究学習に向けて)	2024.11.11
成果の共有(市内小中17校合同研修での報告)		
2025.1.28		



3. 担い手育成の実践

本年度の担い手育成のための各講座の実践状況を下表にまとめました。
 学生向けには出前講座を計画していましたが、連携先の信州大学との協議により体験講座に変更しました。3種類の講座に対して、学生延べ30名(実人数11名)、市民延べ50名(4回:実人数38名)、教員8名×3回の参加がありました。

講座	プログラム	時期	内容	参加人数	育成人数
体験講座・学生	武蔵野六中謎解き	R6. 9. 7	中1の学習旅行での探究学習(謎解きウォーク)の運営サポート	66	6
	堀金小謎解き	R6. 9/24 9/25	小3向け探究学習(謎解きウォーク)の運営サポート	66	4
	堀金小ぬかくど	R7. 2. 21	小3向け探究学習(ぬかくど体験)の運営サポート	66	2
	豊科北小ぬかくど	R7. 3. 3, 4	小3向け探究学習(ぬかくど体験)の運営サポート	64	3
	活動紹介(講座・座学)	R6. 9. 7	安曇野ふるさと探究の取り組み紹介の室内講座	6	6
	謎解きウォーク&ワークショップ(里山)	R6. 11. 9	市民向け育成講座参加・運営サポート	18	2
体験講座・市民	屋敷林落葉拾い	R6. 11. 23	屋敷林保全活動(落葉拾いボランティア)への協力	17	5
	田園エリア体験講座	R6. 10. 12	謎解きウォーク&ワークショップ	10	10
	湧水エリア体験講座	R6. 10. 26	謎解きウォーク&ワークショップ	12	12
	里山エリア体験講座	R6. 11. 9	謎解きウォーク&ワークショップ	18	18
実務講座・教員	まちなかエリア体験講座	R6. 11. 27	謎解きウォーク体験&情報交換	10	10
	第1回実務講座	R6. 6. 18	第1回ワークショップ	8	8
	第2回実務講座	R6. 8. 1	ワークシート作成体験	8	8
第3回実務講座	R6. 11. 11	第2回ワークショップ	10	8	

謎解きウォーク

2024/9/7
武蔵野六中探究学習

体験(学生)

武蔵野六中のセカンドスクールのプログラムの1コマである謎解きウォークラーの運営に学生の協力を募り、グループごとの学習(屋外&屋内)をサポートを通じ、探究学習の指南を体験する機会を設けた。

概要

開催概要

日程) 9月7日(土) 8:30~9:00 準備
 9:00~11:45 A組ウォークラー
 12:30~13:00 準備
 13:00~18:00 B組ウォークラー
 18:30~19:30 交流会&夕食
 19:00~20:00 息継ぎとめも発表
 20:00~21:00 A組まもめ発表

班別) A組34名 B組32名 計66名 NPO他10名 協力生5名
 A1(5) 宮崎 穂川 A2(5) 矢花 小川 A3(6) 望月 菱乃
 A4(6) 百瀬 高上 A5(6) 栗原 清野 A6(6) 渡辺 青柳
 起輝 藤村 坂
 B1(5) 宮崎 穂川 B2(5) 矢花 穂高 B3(6) 望月 菱乃
 B4(5) 百瀬 高上 B5(5) 栗原 清野 B6(5) 渡辺 青柳

【エリアマップ】



フィールドで探し、考え、記録し、解説をきく



地形の謎を解け!

Q1: 地形の謎を解け! (写真参照)

Q2: 地形の謎を解け! (写真参照)

Q3: 地形の謎を解け! (写真参照)

暮らしの謎を解け!

Q1: 暮らしの謎を解け! (写真参照)

Q2: 暮らしの謎を解け! (写真参照)

Q3: 暮らしの謎を解け! (写真参照)

まとめ作業の指南

作成されたワークシート

C1+D1+C2+... B2+A3

C2: 謎解きウォークの思い出を振り返り、感想を記入する。

D1: 謎解きウォークの思い出を振り返り、感想を記入する。

B2: 謎解きウォークの思い出を振り返り、感想を記入する。

育成活動

開始前の下見やミーティングで事前に情報を共有



班の謎解きウォーキングのサポート(誘導・用紙配布等)



まとめ作業の指南



謎解きウォーク

2024/9/24, 25
堀金小3年生地域探究学習

体験(学生)

堀金小3年生の総合学習の一環で実施する謎解きウォークの運営に、大学生の協力者を募り、グループごとの学習(屋外と屋内)をサポートを通じ、探究学習の指南を体験する機会を設けた。

探究学習内容

開催概要

日程	3年1組 9月24日(火) 8:45~12:20
	3年2組 9月25日(水) 8:45~12:20
	予備日 9月26日(木) 8:45~12:20
時間割	8:15 ~ 8:45 準備(2F多目的室)
	8:45 ~ 8:55 挨拶・説明
	8:55 ~ 11:10 ウォークラリー
	11:10 ~ 11:20 休憩・準備
	11:20 ~ 11:50 まとめ作業
	11:50 ~ 12:10 各班発表
	12:10 ~ 12:20 講評・まとめ

【エリアマップ】



育成活動

授業開始前の事前打合せ



班ごとの謎解きウォークのサポート



まとめ作業の指南



概要

フィールドで探し、考え、記録し、解説をきく

発見したこと・気づきをまとめる



地形の謎を解け!



Q1 赤色の山はなぜここに存在する?
Q2 赤色の山はなぜここに存在する?
Q3 赤色の山はなぜここに存在する?
Q4 赤色の山はなぜここに存在する?

くらしの謎を解け!



Q1 田舎が賑やかなのはなぜ?
Q2 田舎が賑やかなのはなぜ?
Q3 田舎が賑やかなのはなぜ?
Q4 田舎が賑やかなのはなぜ?

堀金小学校3年 なぞと謎ウォークラリー



ぬかくど体験

2025/2/21 堀金小3年生
2025/3/3, 4 豊科北小3年生

体験(学生)

堀金小3年生、豊科北小3年生の総合学習の一環で実施するぬかくど体験の運営に、大学生の協力者を募り、紙芝居やクイズによる学習の運営体験の機会を設けた。

探究学習内容

ぬかくど釜の構造の説明と着火



紙芝居によるぬかくど釜の説明



無農薬米や田んぼの生き物のお話



おむすびつくりと試食



育成活動

着火後～炊きあがりまでの間に実施する学習コーナーの運営を学生が体験。

ぬかくどを解説、紹介する紙芝居の運営を実践



無農薬米栽培農家による栽培の解説や田んぼの生き物の解説をサポート



おさらいを兼ねたクイズコーナーの運営を体験



研修・学習講座

～信州大生参加～

体験(学生)

2024/9/7 活動紹介

武蔵野六中のセカンドスクールの運営の合間を縫って、体験講座に参加した学生向けにふるさと探究の活動紹介を行い、探究学習のポイントを共有するとともに今後の取り組みに向けての意見交換を行った。

【概要】

開催場所 ビレッジ安曇野 2F研修室

時間 16:00～18:00

内容

- ふるさとづくり応援団からの探究学習の紹介
- 紹介内容の質疑
- 今後の担い手確保、昼間の探究学習体験を通じての感想等についての意見交換

【主な意見】

- ・学生が参加する取り組みの情報が多いので学生側でも自分の思考とマッチする取り組み探しに苦心している現状
- ・将来目指す職種に合うか、未知の場所とアクセスの良し悪しで選択している
- ・草刈りや力仕事のお手伝いもあるようなら参加したい
- ・子供たち向けに班ごとでアイスブレイクの時間があってもよいと感じた

育成・研修活動



2024/11/9 謎解きウォーク&ワークショップ(里山)への参加

市民向けの講座として11月に開催した謎解きウォーク&ワークショップの運営協力者・参加者として学生を募集。現地を見て歩く謎解きウォークの中で見た安曇野市内の里山の限界集落の実態を知ったうえで、今後の在り方等について、若者の視点から意見や提言を出してもらった。

【概要】

開催場所 明科潮沢地区・明科公民館

時間 13:00～16:30

内容

- 明科潮沢地区での謎解きウォーク
- 明科公民館でのワークショップ
 - ・謎解きウォークの振り返り(印象に残ったこと・初めて知ったこと)
 - ・歩いて見つけた安曇野の宝物
 - ・今後の社会の変化を予想しながら、50年後にも宝物を維持していくために誰が何をすべきか

【運営方法】

- ・安曇野市教育委員会文化課との連携で実施
- ・同課策定中の「文化財保存活用地域計画」策定に向けた市民意見把握の一環として実施
- ・ふるさとづくり応援団は謎解きウォークの運営を担当

育成・研修活動



研修・学習講座

～信州大生参加～

体験(学生)

2024/11/23 屋敷林落葉拾いボランティアへの参加

屋敷林と歴史的まちなみプロジェクトが主催で例年開催している「落葉拾いボランティア」に学生の参加を募った。市内にある国の重要文化財「曾根原家住宅」の屋敷林の落葉清掃を行い、その見学や今後の活動等についての意見交換を行った。

【概要】

開催場所 曾根原家住宅

時間 9:00～11:30

内容

- 曾根原家住宅の落葉清掃
- 曾根原家住宅の見学
- 今後の活動等に関する意見交換

【主な意見】

- ・安曇野にこうした場所や活動があることを初めて知った。様々な活動に参加でき、体験できることに喜びを感じる。
- ・いろいろなものを見て、体験していくことが大事だと考えているので今後も機会があれば参加したい。

育成・研修活動



落ち葉を掃き集める参加者

屋敷林に関心がある県外在住者、信州大学の学生など幅広い世代が集まった。参加者は集めた落ち葉を一輪車で運んだり、生け垣に引き抜いたり、力を合わせて取り組んだ。作業後は重要文化財の住宅も見学した。落ち葉拾いのボランティアは毎年場所を委ねて行われている。プロジェクトの場を詳しく紹介した。

(宮沢 一)

謎解きウォーク & ワークショップ (田園)

体験(市民)

2024/10/12 堀金・中堀地区

前半では中堀地区を散策しながら謎解きウォークを体験。後半では、ウォーキングの際の発見や気づきを振り返りながら、この地域の宝物を継承していくための方策について意見交換。

中堀地区は、拾ヶ堰の開削前後に扇状部に進んだ新田開発の中で形成された集落。その特徴に関する様々な痕跡から、集落の形成過程や成り立ちについて知る謎解きウォークを展開。

【エリアマップ】

- A 地形と水の謎
- B 地帯の中の謎
- C 川の謎
- D 橋と水の謎



地形と水の謎を解け！ 堀金 中堀 扇状部中央部 A



Q1 堀金と中堀の間に、かつてあったのは？

Q2 日本橋の遺構が、どこに？

Q3 堀金と中堀の間に、かつてあったのは？

Q4 堀金と中堀の間に、かつてあったのは？

地帯の中の謎を解け！ 堀金 中堀 扇状部中央部 B



Q1 堀金と中堀の間に、かつてあったのは？

Q2 堀金と中堀の間に、かつてあったのは？

Q3 堀金と中堀の間に、かつてあったのは？

Q4 堀金と中堀の間に、かつてあったのは？



謎解きウォークでは、数十年この地区にいて初めて知ることが多くあったとの声が聞かれた。また、近年、古い大きな住宅が分譲住宅になる等の変化の中、人口も増え、古くからの住民との繋がりが薄い区域も多くあることが課題として挙げられた。新住民が暮らす地域での興味や関心を高める体験(一例として精霊流し)を通じ、子どもへの「宝」の継承を地域学習等で取り組むこと等の重要性が確認された。



発見・気づきをもとに議論

フィールドで探し、考え、記録し、解説をさぐ

謎解きウォーク & ワークショップ (湧水)

体験(市民)

2024/10/26 穂高・等々力地区

前半では等々力地区を散策しながら謎解きウォークを体験。後半では、ウォーキングの際の発見や気づきを振り返りながら、この地域の宝物を継承していくための方策について意見交換。

等々力地区は、市の指定文化財等々力家住宅長屋門や東光寺等の歴史的資源を有する地区で、幾筋もの水路があり、湧水が豊富で、わさび畑や養鱒の栽培も盛ん。人々の生業や信仰にまつわる見どころでの謎解きを中心にウォーキングを実施。

【エリアマップ】

- A わさび畑の謎
- B 地帯の謎
- C 暮らしと信仰の謎



わさび畑の謎を解け！ 堀金 中堀 扇状部中央部 A



Q1 堀金と中堀の間に、かつてあったのは？

Q2 堀金と中堀の間に、かつてあったのは？

Q3 堀金と中堀の間に、かつてあったのは？

Q4 堀金と中堀の間に、かつてあったのは？

暮らしと信仰の謎を解け！ 堀金 中堀 扇状部中央部 C



Q1 堀金と中堀の間に、かつてあったのは？

Q2 堀金と中堀の間に、かつてあったのは？

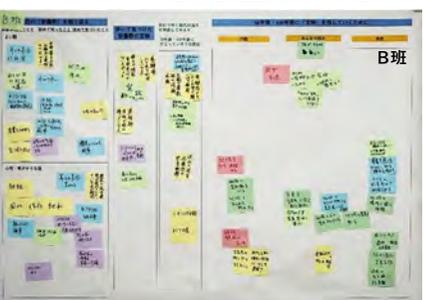
Q3 堀金と中堀の間に、かつてあったのは？

Q4 堀金と中堀の間に、かつてあったのは？



空家になった等々力家の庭園の現状、わさび栽培の過去からの変化などを現地で学び知ったうえで、安曇野の宝の継承について議論。市民がより「わがこと」として実感できる以下のような取り組みの重要性が指摘された。

- ・温暖化や地下水位低下などの環境変化にも目を向ける必要がある。
- ・「食」はより多くの人が意識できるテーマ。歴史文化の学びに「食」を関連付けることで、ありがたみや先人の知恵・技術などがわがこと(自分事)として受け入れやすくなる。
- ・過去の安曇野の暮らしのスタイルや文化は「地産地消」。その観点に立って、歴史的な資源や地域の宝物をとらえることが重要。



発見・気づきをもとに議論

フィールドで探し、考え、記録し、解説をさぐ

謎解きウォーク & ワークショップ (里山)

体験(市民)

2024/11/9 明科・潮沢地区

前半では潮沢地区を散策しながら謎解きウォークを体験。後半では、ウォーキングの際の発見や気づきを振り返りながら、この地域の宝物を継承していくための方策について意見交換。

明科潮沢地区の名九鬼集落は、江戸～明治期のたばこや綿羊栽培等を通じて繁栄した集落で歴史的資源が多くあるが交通の発達とともに、限界集落へと変化。ここに残る往時の住まいの様子や信仰にまつわる謎解きウォークを通じて、その現状と成り立ちの一端を知る機会を創出。

フィールドで探し、考え、記録し、解説をきく

【エリアマップ】



暮らしの謎を解け!

謎の山 中道が神社の境内にある山に由来する?

謎の川 どの川か?

謎の寺 中道が山より上りた山に神社は?

謎の山 中道が山より上りた山に神社は?

信仰の謎を解け!

謎の山 どの山か?

謎の川 どの川か?

謎の寺 中道が山より上りた山に神社は?

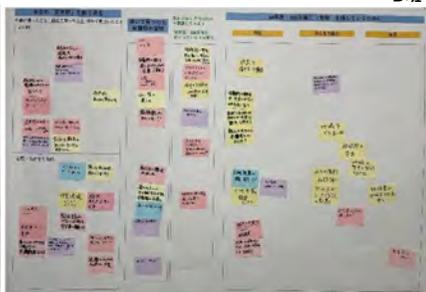


限界集落内の歴史的資源の活用策として芸術活動や体験交流の場としての活用などのアイデアが多数出されたものの、資産を管理する者同士も交流がないため、地域の今後についてのコンセンサスを形成できない状況であること(管理している地元の方からの指摘)もあり、アイデアや理想を実践に展開していくまでの様々なハードルや課題があることを再認識した。



A班

B班



発見・気づきをもとに議論

謎解きウォーク & ワークショップ (まちなか)

体験(市民)

2024/11/27 穂高・旧保高宿地区

松本地域振興局に事務局が置かれている「地域づくりネットワーク」(地域づくりに関わる市民団体の相互連携組織)の研修の一環として、謎解きウォークの体験機会の運営を担当。

穂高神社から北に続く塩の道(千国街道)沿いの旧宿場町である旧保高宿地区を対象に謎解きウォークを実施。宿場町の道筋や地割の意味や建物の特徴、まちなかにある石造物の役割、エリア内にある礫山美術館整備の背景等を知るきっかけを提供。

フィールドで探し、考え、記録し、解説をきく

【エリアマップ】



地理の謎を解け!

謎の山 どの山か?

謎の川 どの川か?

謎の寺 どの寺か?

暮らしの謎を解け!

謎の山 どの山か?

謎の川 どの川か?

謎の寺 どの寺か?



屋外での謎解きウォークの体験後、穂高公民館で「ふるさと探究」の取組をスライドや映像を用いて紹介。謎解きウォークをきっかけにして初級、中級、上級へと発展するしくみを組み立てながら、学校と相談してオーダーメイド方式で「探究」の授業を展開してきた経過や工夫を説明。地域課題を見つけて提案をまとめる授業へ発展させてきた事例を動画でも案内した。

参加団体:
松本青年会議所 特定非営利活動法人わおん
中信教育事務所 安曇野市役所 筑北村役場
(事務局) 松本地域振興局



探究の取り組みの実例などを紹介

謎解きウォークを体験
穂高自治体団体職員ら10人
「ふるさと探究」の取組をスライドや映像を用いて紹介。謎解きウォークをきっかけにして初級、中級、上級へと発展するしくみを組み立てながら、学校と相談してオーダーメイド方式で「探究」の授業を展開してきた経過や工夫を説明。地域課題を見つけて提案をまとめる授業へ発展させてきた事例を動画でも案内した。



旧宿場町にある道祖神の説明を受ける参加者

安曇野市教育委員会の安曇野市学校教育ブランドデザインの中で、これからの安曇野市の教育・学校のあり方のテーマの一つとして掲げられている「安曇野の時間」の推進に向け、教職員有志の推進委員を対象に「ふるさと探究」の運営の体制や実施例などを紹介したうえで、今後の展開に向けての課題を見出すワークショップを開催。

前半は座学で取り組みの趣旨やねらい、特徴、実施例等を紹介。



心のやち探究・安曇野を知る

後半は2グループに分かれて、地域探究をテーマにした気づきを促す学習についての現状と課題をワークショップ形式で整理。ここで出された主な課題は以下の通り。

- ・教材作成の難しさ
- ・年間行事との兼ね合いのなかでの学習時間の確保
- ・学年間の連続性や連携の確保
- ・地域のキーパーソンとの縁の構築、協力人材探し
- ・「調べもの」についてインターネット利用の学習になりがちな傾向等



安曇野での地域探究学習推進の課題の共有

安曇野の時間推進委員と有志の教職員を対象に、国営アルプスあづみの公園をフィールドにして謎解きワークの着眼点を現場で知り教材づくりの一端を体験する現地学習講座を開催。

謎解きシートの趣旨や内容を座学で学んだあと、「あづみの学校」のジオラマで安曇野の地形や水の流れなど、市内の暮らしの基盤となる環境を学んだあと、公園内に設けた複数の立寄りポイントで、応援団スタッフの案内をききながら、子供たちに気づき、学んでほしいこと、その伝え方を記入するフィールドワークを実施。

IV フィールドワーク



番号	内容	備考
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		

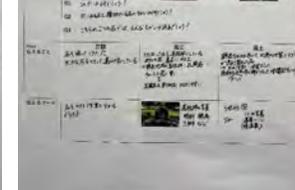
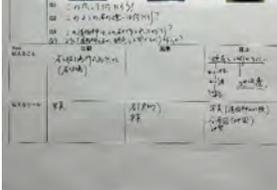
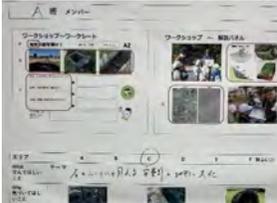
フィールドワーク



フィールドでの記録をもとに、謎解きシートの試作をグループ単位で実践。それぞれの班で学びのテーマと気づきを促すこと、伝えること、伝えるツールを書き出す作業を実施し、その成果を共有。



グループ単位でのワークシートの製作体験



第3回目では、今年度豊科南中学校3年生を対象にふるさとづくり応援団も協力して実施した「ふるさと探究」(5月末~9月下旬まで計9コマ)や8月に実施した体験講座の振り返りを行い、今後の地域探究学習に向けての取り組みを見出すワークショップを実施。

豊科南中の3学年の教員をゲストに迎え、実施前と実施後の考えの変化や実施後感じた成果や課題を絵毛でいただき、これを皮切りに推進委員相互で意見を出し合う車座形式での会議運営を支援。

NPOスタッフも議論に参画し、探究を実践した教員、体験講座のみの教員も含めた教員全員、NPOスタッフの3者の意見を色分けして記録して整理。

意見交換の状況



NPOスタッフも議論に参画し、探究を実践した教員、体験講座のみの教員も含めた教員全員、NPOスタッフの3者の意見を色分けして記録して整理。

議論のまとめ



4. 担い手育成の課題

安曇野の時間推進委員との3回の研修から見出された「今後の地域探究に主眼を置いた総合学習の進め方に関するポイント」として、次の点を整理しました。

【今後に向けての取り組みのポイントと方向性】

- ①総合学習の積上げ方。とくに単発、お決まりの繰り返しにならない工夫
→総合学習の全体計画のあり方、小中一貫学習との関係整理、学年間の段階的発展、教員独自の指導方針・得意分野との調整、学年内での着地点の共有 等
- ②地域との役割分担の在り方 → 学習の導入部でNPOが果たすべき役割が大きい
- ③フィールドワーク後の学習の導き → 図書館司書の活用、地域の方々との接点づくり
- ④外での学習での安全性確保や時間の限界 → 夏の暑さ、歩いての移動を考慮したプログラム
- ⑤子供たちへの接し方のノウハウ蓄積の必要性(NPO側として)

今年度は、信州大学との連携のもとで学生向けの体験講座8回、安曇野市教育委員会との連携のもと市民講座3回、実務講座3回を開催し、担い手育成の機会に延べ102人(実人数57名)の参加を得ることができました。

一方で、それぞれの講座の運営や今後の展開等については次のような点が課題として挙げられます。

◆体験講座(大学)

- ・学生のニーズが様々な体験、見聞の拡大であることを考慮した内容の検討
- ・学生の参加期間が長期休みの期間に限定される傾向が強いため、授業の枠の中での参加機会の模索

◆体験講座(市民)

- ・地域課題の解決に関心のある市民団体等との連携による参加者の確保対策

◆実務講座(教員)

- ・複数回授業での教員とNPOの役割区分等に関してのさらなる工夫の検討

担い手育成(2024年度)

※信州大学との協働で出前講座を体験講座に変更

体験講座【大学】※

学校 延28名(11名) 地域

- 堀金小謎解き(9月)
- 武蔵野六中謎解き(9月)
- 堀金小めかくど(2月)
- 豊科北小めかくど(3月)
- 活動紹介(9月)
- 謎解き・里山(潮沢)
- 屋敷林落葉拾い(曾根原住宅)

体験講座【市民】

延50名(38名)

- 謎解き・田園(中堀)
- 謎解き・湧水(等々力)
- 謎解き・里山(潮沢)
- 謎解き・まち(保高宿)

実務講座【教員】

安曇野の時間推進委員(8名)

第1回

6/18

- ・活動の展開
- ・活動の視点
- ・ワークショップ

第2回

8/1

- ・学びの着眼点
- ・フィールドワーク
- ・ワークシート作成

第3回

11/11

- ・ふりかえり
- ・今後の課題
- ・ワークショップ

教員研修

1/28

- ・事例紹介

共有

5. 情報発信

(1) 国営アルプスあづみの公園での発信

堀金・穂高地区ガイドセンターの休憩スペースにふるさと探究の取り組みを周知するコーナーを設置しました。



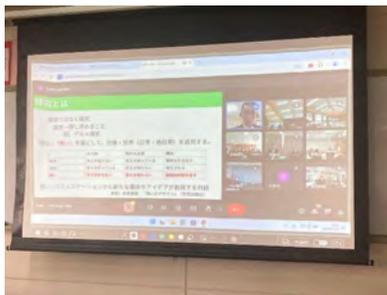
(2) 教員研修会での報告

令和7(2025)年1月28日に市内17校の校長、教頭、教務主任らが集まるクローバー研修(オンライン方式)において、本年度のふるさと探究の取り組みの成果と課題を共有しました。

ふるさとづくり応援団スタッフもこの研修会に豊科南中学校区会場より参加し、全体研修後の南中学校校区関係者会議の冒頭にてふるさと探究の取り組みの細部の紹介や質疑応答も実施しました。



オンライン研修の様子
(明科中学校区からの報告)



オンライン研修の様子
(学校教育課 矢野指導主事からのまとめ報告)



オンライン研修後の南中学校校区会場でのふるさと探究の紹介

(3) 屋敷林フォーラムでの事例紹介

令和7(2025)年2月23日に開催された「安曇野屋敷林フォーラム」において、当NPO代表が第2部のパネルディスカッションにパネリストとして参加しました(参加者56名)。

「安曇野の宝の未来図を考える」のテーマに沿い、安曇野の宝の価値を次世代に伝える取り組みの一例として、ふるさと探究担い手育成の活動状況等を報告しました。

また、同時期に行ったパネル展においてもふるさと探究の取り組み紹介のパネル展示を行いました。



当日の会場の様子



フォーラム開催案内のチラシ



ふるさと探究の取り組みの紹介 (望月代表理事からの報告)



パネル展示の状況及びふるさと探究紹介パネルの抜粋



(4) ホームページでの発信

ふるさと探究安曇野の情報を発信している「安曇野さんぽ」のホームページに「担い手育成」についてのコンテンツを追加しました。



担い手育成



ふるさと探究ハンドブック ～担い手育成（基礎編）～

令和7（2025）年3月

発行： NPO法人 安曇野ふるさとづくり応援団
代表理事 望月 彰
〒399-8304 安曇野市穂高柏原1132番地2

